28O-am09

保険薬局における高齢者の腎機能調査と処方解析

○繁田　知子[1], 上妻　雅之[1], 原　ほなみ[2], 久保寺　千鶴[2], 濱口　祥子[2], 林　昭文[3], 黒宮　潔[4], 吉岡　優子[1]（[1](有)静岡健康企画　たまち薬局, [2]ことぶき薬局, [3]ひまわり薬局, [4]みかん薬局）

【目的】腎機能の低下している高齢者へ過量投与を防止するため、高齢者の腎機能の実態を把握した。その腎機能と処方内容を分析検討した。

【方法】対象；当方人 4 薬局における 70 歳以上の定期来局患者

方法；(1)年齢・性別・体重・血清クレアチニン値を調べ、安田の推定式によるクレアチニンクリアランス（以下 Ccr）を計算した。（血清クレアチニン値が不明な患者については処方医療機関に協力を得た）(2)添付文書上、腎機能障害が禁忌または慎重投与と記載されている薬物について調査した。(3)Ccr50 未満の患者の処方解析を行い、医療機関に情報提供した。

【結果】対象患者 1839 人、Ccr 確定患者数 1150 人、Ccr 不明患者数 689 人、確定数 62.5%　平均 Ccr62.0、0.0＜Ccr≦30.0　53 人 4.6%、30.0＜Ccr≦50.0　250 人 21.9%、50.0＜Ccr＜80.0　654 人 57.2%、Ccr≧80.0　186 人 16.3%

(1)血清クレアチニン値が正常あるいはわずかな異常値であっても、軽体重の高齢者では Ccr が 30 未満の患者が少なからずみられた（4.6%）。

(2)Ccr50 以下の患者の処方薬物の添付文書では、腎機能障害が禁忌と記載されているものが 20 成分 23 銘柄、慎重投与が 70 成分 94 銘柄あった。そのうち、腎機能値の指標により用法用量が設定されているものは 5 薬物のみであった。

(3)禁忌・慎重投与が処方されている事例に対して医療機関に情報提供したところ、処方変更された事例もあった。

【考察】保険薬局においても腎機能について把握し、適切な薬物療法を行う必要を感じた。また、添付文書の記載が不十分な薬物が多く、実際の処方量を検討する上で詳細な資料の収集分析の必要性および添付文書の改定が望まれる。